

遺伝子組換え農作物の検知技術 ー競合PCR法を用いた簡易定量法ー

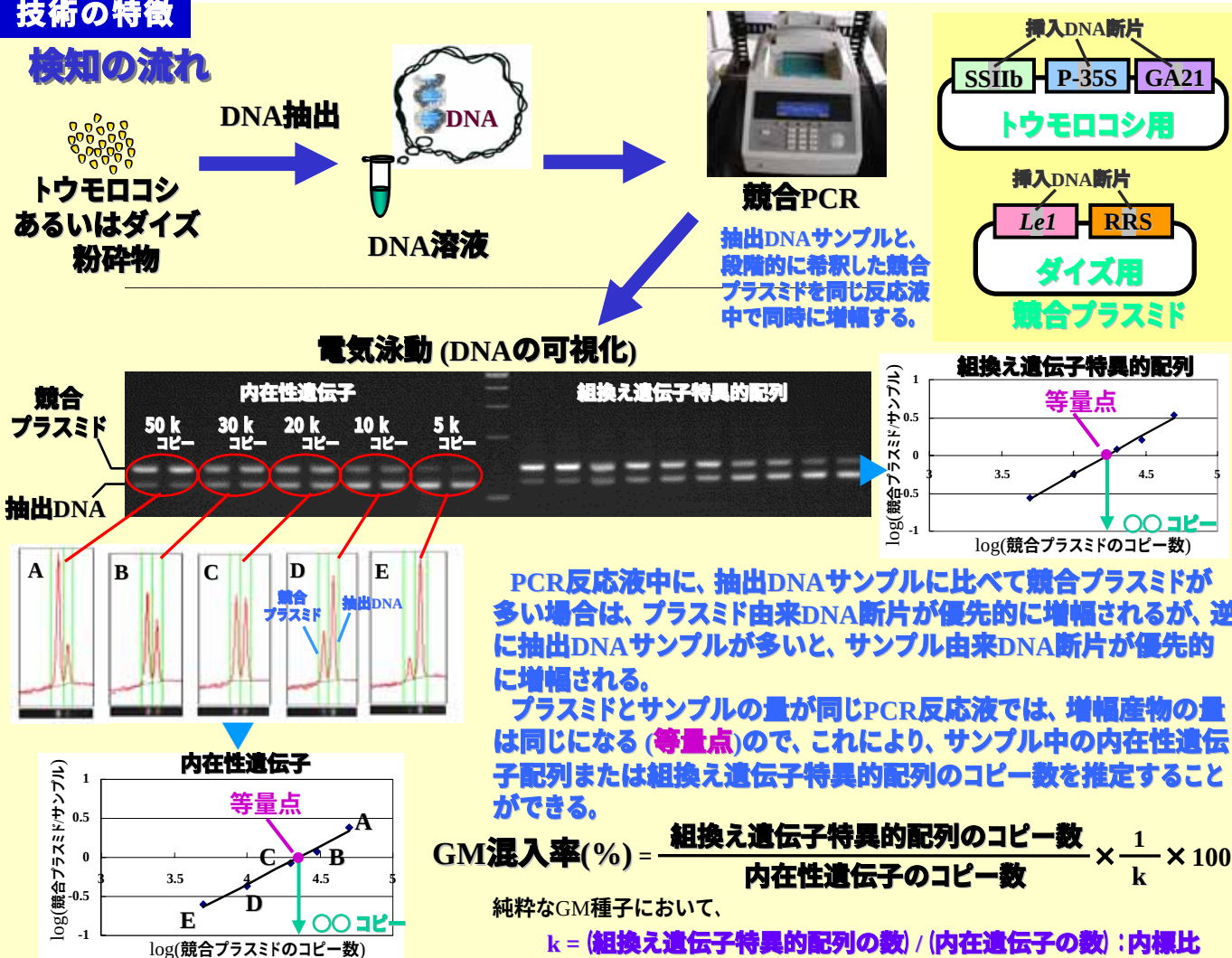
研究の内容

現在、我が国において安全性が確認されたダイズ、トウモロコシなど55品目の遺伝子組換え(GM)作物の商品化が可能になっている。

これまで我々はリアルタイムPCRを用いたGMダイズ、トウモロコシの定量法を開発してきた。今回、高価なリアルタイムPCR装置を必要としない定量法である競合PCR法を用いたGMダイズ、トウモロコシの定量法を開発した。

技術の特徴

検知の流れ



○高価なリアルタイムPCR装置を用いることなく、未知試料のGM混入率を推定することが可能である。



独立行政法人
食品総合研究所

代表研究者：児玉 貴志
所 属：企画調整部GMO検知解析チーム
問い合わせ先：〒305-8642
茨城県つくば市観音台2-1-12